

＜那覇市作成記入例＞

身体障害者の電動車椅子（EW/C）判定調査表

市町村名	那覇市	調査年月日	平成 〇〇 年 〇 月 〇 日	
相談種別	来所 ・ 書類 ・ 巡回	評価者	評価者の氏名	職名 例) 理学療法
氏名	那覇 太郎 (男) ・ 女	生年月日	昭和・平成 〇〇 年 〇 月 〇 日	年齢 (〇〇 歳)
住所	那覇市泉崎1-1-1	身障手帳	(昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日) 交付	
障害名	例) 脳性麻痺による脳原性運動機能障	手帳番号 等級	〔 沖縄県 〕 第 〇〇〇 号 第 1 種 1 級	

種類	・ 普通型 (4. 5 km/h ・ 6 km/h) ・ 簡易型 ・ 電動リクライニング式 ・ 電動リフト式 ・ 電動テイルト式普通型 ・ 電動リクライニング・テイルト式普通型
使用目的	1. 屋内 (2) 屋外 (通勤・通学) 3. 施設 4. その他 () 例) 単独での移動手段として使用(病院受診や買い物等を使用する)
家庭環境	1. 介護者 (有) [父・ヘルパー] ・ 無) 2. 自動車 (有) [普通乗用車] ・ 無) 例) 1. 主にヘルパーが介助。ヘルパーがいない時間は家族が介助をする。
住宅状況	1. 自家 2. 借家 (3) 集合住宅 4. 公営・公団・公社住宅 5. その他 () 例) 本人の住宅はアパートの1階部分。
使用環境	1. 屋内での車いす使用 (可) ・ 不可) I. 市街地 農地 (坂道が多い) 2. 敷居等の段差 (有) ・ 無) II. 交通量 (多い) ・ 少ない) 3. 廊下の幅 (広い) ・ 狭い) III. 歩道 (広い) ・ 狭い) 4. 玄関から外に段差 (有) ・ 無) IV. 道路状況 舗装 ・ 砂利 ・ 傾斜 ・ 悪路) 5. スロープ (有) ・ 無) VI. 段差 (有) ・ 無) 6. エレベーター (有) ・ 無) VII. 坂道 (有) ・ 無) (急 緩) (長 ・ 短) ※特記事項があれば記入 例) 3. IIIの廊下の幅や歩道の幅は狭く、4. VIの玄関から外に段差や道路上の段差があるが、電動車いすを操作する上で、特に問題なし。
維持	1. 電動車いすの格納 (可) ・ 不可) 2. 充電用コンセント (有) ・ 無) 3. バッテリー充電液の補充 (可) ・ 介助可 ・ 他人に依存) 1. 例) 室内(玄関、リビングなど) 2. 例) 室内にて充電 3. 例) ヘルパーや家族に依頼
使用頻度	1. 月 ・ 週 ・ (日) (1 ~ 2) 回程度 2. 1回使用時間 (1 ~ 3) 時間程度
普通型の車いすが使用できない理由	例) 普通型の車椅子でフラットな場所では、足で床や地面を蹴ることで数メートルの移動が出来る。しかし上下肢ともに麻痺のため、路上において普通型の車椅子の操作は困難。自宅周辺の道路は坂道で、さらに操作が難しいため、本人の生活・活動が制限されている状況である。

交通規則 の理解	1. 基本的理解 (右側通行・歩道の通行・横断歩道の通行・信号順守) . . . (可・不可) 2. 注意力 (安全の確認) . . . (可・不可) 3. 判断力 (事故の通報) . . . (可・不可) 例) 1, 2. 普通免許を所持しており、交通規則の理解及び判断能力は問題ない。
視 覚 聴 覚	1. 視覚障害 (有・無) 例)1.眼鏡使用 裸眼(左右)0.4 矯正(左右)1.0 2. 聴覚障害 (有・無) 2.異常なし
精 神 機 能	(特に視覚認知面) : ※問題がない場合でも「問題なし」と記入すること。
身 体 機 能	1. 寝返り (可・介助) 2. 起き上がり (可・介助) 3. 座位 (可・介助) 4. 立位 (可・介助) 5. 歩行 (可・介助) 6. ベッド ⇄ 車椅子移乗動作 (可・介助) 7. 自走式車椅子操作 (可・介助) 例) 手すり使用して立位可。しかしバランスは不安定。歩行は介護者の手引きで可能。自宅内では普通型の車椅子を使用しているが、屋外や長距離移動の際は介助を必要としている状態。また操作時に下肢の伸展パターンが増強し、全身の筋緊張亢進につながりやすい
服薬状況	例) ・ユリーフ錠—1日2回 ・ムコスタ錠—1日3回 ※眠気等の副作用がないか確認するために必要です。 服薬が多い場合は、薬剤情報提供文書のコピー添付でも
電 動 車 椅 子 操 作 評 価	コントロール方法 : ①上肢 (右・左) ②下肢 (右・左) ③チンコントロール ④呼気 ⑤その他 () 基本操作 : ①メインスイッチ (可・不可) ②速度切り替え (可・不可) 試乗評価 : 使用機種 (メーカー名 ○○○) ① 乗車 (可・困難・不可) ⑥ 坂道 [10°] (可・困難・不可) ② 下車 (可・困難・不可) ⑦ 段差 [2] cm (可・困難・不可) ③ 座位バランス (可・困難・不可) ⑧ 道路走行 [舗装] (可・困難・不可) ④ 停止 (可・困難・不可) [砂利] (可・困難・不可) ⑤ 方向転換 (可・困難・不可) 意見 : 担当者 操作評価を行った者の氏名 例) 走行中に周囲の状況判断能力があり、歩行者等と十分な間隔をとり走行、停止することが可能。後退時の状況判断も問題なし。 方向転換時、幅の狭い道での上肢のコントロールに問題なく、飛び出し等の際はコントローラーから上肢を離すことが可能。その他操作方法は特に問題なし。 姿勢の安定性、操作性の向上を図るために座位保持装置を必要とする。 手指の巧緻性に問題があるため、コントローラーを球ノブにすることで操作性の向上が見られる。 業者名 [操作評価を行った業者名]
総合意見 :	例) 普通型車椅子の自力駆動が不可能で介助者である家族も車椅子の手押しが困難。その為、なかなか外出できず家にいることが多い。電動車椅子での走行は右上肢の残存機能を活用しレバーのコントロールも良好でほぼ自立レベルで可能。今後、友人や単独での外出の機会を増やし、活動範囲を広げるにより、社会性の向上が期待できる。